

入 試 年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士後期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	演劇学専攻
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
〔Ⅰ〕					
日本近世演劇研究においては、従来閲覧の難しかった浮世絵や番付類が、近年画像データとしてデジタルアーカイブ化され広く公開されるようになったことによる研究の進展と充実が見られる。特に芝居錦絵・大首絵等の浮世絵は、歌舞伎役者の身体的個性や人気の実態、上演時の演出や演技等を検討する際に有力な情報をもたらす資料であるが、各機関の所蔵状況は必ずしも網羅的に把握・公開されず、劣化・汚損防止のために閲覧や撮影も困難であった。また絵本番付・役割番付等の番付や摺物についても同様で、台帳や役者評判記といった文字資料に比して翻刻もほとんどなされてこなかった。 しかし国立国会図書館、早稲田大学演劇博物館等を中心に、各機関の所蔵資料の鮮明な画像データがインターネットで公開されるようになり、閲覧が格段に至便になったとともに、論文・書籍に掲載することで重要な視覚的情報を読者と共有することも容易になった。今後もデータ化と公開の一層の進展が望まれる。 ただし現状での問題点としては、書誌や上演情報等に表記・形式の不統一が多く見られること、機関ごとに検索方法が大きく異なることが挙げられる。特に表記や検索方法については将来的にある程度標準的な形式を定めることが望ましく、さらには各アーカイブを横断的に検索できる方法の開発が今後の課題になると考えられる。					
〔Ⅱ〕					
河竹黙阿弥の作品研究は比較的研究が進展しているものの、同時代の他分野の芸術との関連については新たな研究の余地が大いにある。例えば多くの作品の初演時にはそれを読み物化した合巻が刊行されているが、合巻研究・歌舞伎研究のいずれからも等閑視されてきた傾向がある。歌舞伎研究の視点からは、この種の合巻は興行初日と前後して刊行されることが多いため、台帳・番付・評判記等が示す上演実態と合巻の内容とを比較することによって、場面構成等についての執筆時の構想と実際の上演との間の相違点を知ることができ、興行制作と脚本改変の過程を検討する資料となりうる。一方では演劇に取材した合巻の創作の実態について、文学研究においても新たに資するところが多いと思われる。吉田弥生『黙阿弥研究の現在』等の研究成果はあるものの、黙阿弥作品を題材とする合巻の所蔵状況や書誌情報の整理、上演との比較分析は必ずしも網羅的に行われておらず、歌舞伎研究において新しい価値をもちうると考える。					

【出題の意図】

演劇史・演劇学に関する専門的な知識と問題意識を問うとともに、論理的な文章表現の能力を問う。地域、年代、ジャンルなどについて多様な関心をもつ受験者を想定し、各自の関心のある分野から具体的な題材を選んで論述できるよう配慮する。

公開できない理由

試験問題について、著作権の許諾がとれていないため、解答または解答例および出題意図についても、公開しない。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。